

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月6日現在

機関番号：25403

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530471

研究課題名（和文） ジェノサイドと集団暴力に対する比較研究

研究課題名（英文）

Comparative Research on Genocide and Mass Violence

研究代表者

C・P Scherrer（クリスチャン シェラー）

広島市立大学・広島平和研究所・教授

研究者番号：10347619

研究成果の概要（和文）：研究期間中（2008～2011）は、ジェノサイドや集団暴力の問題が顕著であったアフリカを中心に聞き取り調査等の現地調査を行い、アディスアベバにあるアフリカ連合において平和や安全の問題に関して事例報告や提言を行った。また、アフリカ東部の海賊問題についてケニア、タンザニア、モザンビーク北部やコモロ諸島などにおいて現地調査を行い、海賊問題を抱える国々へ提言可能な構造的分析を行った。

研究成果の概要（英文）：Given that violent conflicts had been most prominent in Africa throughout the period of 2008-11, the focus of the research has been set accordingly. Each year, field-research in Africa, the world's most conflict-prone continent was followed by interviews and observations at the headquarters of the African Union in Addis Ababa, focusing on peace and security issues. Recent research also focussed on the ever-expanding piracy threat, driven by the break-down of Somalia as a state into a situation of total lawlessness, which spread out from the Horn of Africa, the Gulf of Aden further afield and southwards as far as the East African community (coasts of Kenya, Tanzania and North of Mozambique as well as the Seychelles Islands (most exposed of all), and the Comoros Islands.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：ジェノサイド、現代の紛争、紛争や犯罪の根源の分析、紛争予防、ジェノサイド予防、先住民族の権利保護、先住民族の権利拡大

1. 研究開始当初の背景

ジェノサイドや集団殺戮、またソマリアの政情不安によって引き起こされる東アフリカの「アフリカの角」と呼ばれる地域における海賊行為のような新たな問題を記録に残し分析する研究は、大きな困難を伴うが、非常に重要な研究である。これら現代の集団暴力を記録に留めようとする研究者は、このテーマが現代の最も重要かつ危険性の高い問題であることを認識している。

ジェノサイドとは過去の遺物ではないのである。著しい人権侵害、残虐行為やジェノサイドは世界のいくつかの地域において大惨事を招いた。1990年代や2000年から2010年には、主に中央アフリカ（ルワンダ、ブルンジ、コンゴ）、東南アジア、中央アジアにおいて、あらゆる人々が無感情や無感覚になるほどの恐怖やトラウマに襲われた。暴力は人を死に至らしめるだけでなく、生き残った人々の生活をも破壊してしまうものである。

2. 研究の目的

紛争研究において、大規模な研究が行われていなかったり、確かな情報が集められていない事例の調査・研究を深めることである。現代の紛争研究は往々にして、米英が関与したイラクやアフガニスタンにおける事例など、マスコミにも大きく取り上げられる表面的な問題が多く扱われる一方で、同じく米英その他がイラクに対して行った制裁による犠牲や劣化ウラン弾の使用による大規模な犠牲などは、十分な調査・研究が行われていたとは言えない。

本研究は、こうした様々な様相のジェノサイドや大量虐殺の事例を比較研究することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は概ね **participative observation**（参加型観察）と呼ばれる現地調査を基本とし、関係者の聞き取り調査や資料収集を行った。

4. 研究成果

(1) ルワンダ、コンゴ、東チモールを例とする世界各地のジェノサイドや集団暴力の事例を比較研究するための現地調査や資料収集を行った。

(2) アフリカ東部の海賊問題を例とする新たな集団暴力の事例について調査し、海賊問題を抱える国々へ提言可能な構造的分析の端緒についた。

(3) アフリカ連合の平和安全保障委員会との協力関係を構築し、紛争予防の対策検討などについて意見交換、情報収集を行った。

(4) 紛争問題を抱えやすい少数民族を例とする社会的弱者の問題についてジュネーブ国連本部の「先住民族の権利に関する専門家機構 (EMRIP)」会議において発表や意見交換を行った。

(5) ルワンダのガチャチャ法廷の事例に学ぶカンボジアのNGOとの協働を企画し、着手した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① “Prevention of Violent Conflict by Structural Accommodation,” in: Kurtz, Lester (ed.-in-chief): *Encyclopedia of Violence, Peace and Conflict*. 2nd edition. London: Elsevier 2009, pp 1725-1781.

② “Violent Conflict: Contemporary Warfare, Mass Violence and Genocide— Datasets, Typologies, and Trends,” in: Kurtz, Lester (ed.-in-chief): *Encyclopedia of Violence, Peace and Conflict*. 2nd edition. London: Elsevier 2008, Oct/Nov, pp 2331-2382.

[学会発表] (計1件)

2011年7月14日、国連本部「先住民族の権利に関する専門家機構 EMRIP」第4会期会議第5部会において「Transforming the declaration on the Rights of Indigenous Peoples into a Convention」と題する論文を発表。於：ジュネーブ/スイス

[図書] (計3件)

① Genocide by Sanctions. Mass Violence in West Asia. Penang: University Sciences Malaysia, USM, Feb 2011

②Silent Death. The Use of Horrific Uranium Weapons. Penang: University Sciences Malaysia, USM, 15 Feb 2011

③Iraq: Silent Death - The Use of Uranium Weapons. Moers: IFEK-IRECOR 2009, 2nd rev. ed.

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

クリスチャン シェラー
(CHRISTIAN・P・SCHERRER)
広島市立大学・広島平和研究所・教授
研究者番号：10347619

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：